

# 支え合う社会

仙台敬老奉仕会

吉永 馨

# 昔は良かった？

1. 昔は年寄りを家族が看た？ 本当？
2. 昔は平均寿命が50以下。年寄りはいない。
3. 少数の高齢者が寝込めば、寝せておだけ。病気でないから医師にも診せない。
4. 寝込めば、まもなく床ずれや肺炎で死亡した。
5. 今なら虐待にあたるが、当時はそれが当然。
6. 昔は介護問題は存在しなかった。

# 日本のボランティアは盛んか？

1. 阪神淡路大震災や、東日本大震災の時、大勢のボランティア活躍した。平時でも介護施設などに慰問ボランティアが沢山訪問している。の本は**ボラが盛んだと思う人が多い**。
2. 欧米では、災害時も平時もボランティアが多く、特に老人介護では職員を助けて介護に奉仕している。この分野で、日本は**甚だ遅れている**が、それを知る人が少ない。
3. 介護施設では人手不足が深刻である。**ボランティアの育成が急務**である。

# 民生（市民生活） をどう守るか

1. 超高齢社会（老人人口が277%）。介護を必要とする人が現在600万人。介護施設は足りない。希望しても入れない人が多い。施設は人手不足。低賃金。
2. 日本では**家族と制度（介護保険）任せ**。欧米では市民が支えている（ボランティアと寄付）**民生を支えるのは市民**。
3. 日本の財政は1000兆円の赤字。団塊の世代の高齢化。
4. 欧米のようにしないと介護崩壊の恐れ。

# 介護職員の不足

	2017年度	2020年度	2025年度
需要見込み	2,078,300人	2,256,854人	2,529,743人
供給見込み	1,953,627人	2,056,654人	2,152,379人
充足率	94.0%	91.1%	85.1%
不足する介護 職員の数	124,673人	200,200人	377,364人

# 従来のボランティアは介護力にならない

1. 合唱団、舞踊団、芸能団などの慰問。これは介護力にはならない。  
行事（お祭り、七夕、花見、クリスマス）などの手伝い。これは平常の介護力ではない。
2. 欧米では毎週来てお年寄りに直接寄り添い、見守る。お年寄り友達付き合いをする。お年寄りはそれを待ち、来ると喜ぶ。ボランティアはやりがい、生きがいになる。
3. 職員は目が離せる。ボランティアは心のケア、職員は体のケアを担当。両者は仕事仲間となる。

# お年寄りは寂しい

1. Boredom(退屈) することない。
2. Loneliness (孤独) 心を開く相手がない。見捨てられ感
3. Helplessness (助けがない) 先の希望がない。全てが空しい

これを支えることは体の介護と同じくらい重要であるが、職員はそれをする時間的余裕がない。

ボランティアがこれを支える

# マザーテレサの言葉

人が最も苦しむのは飢餓でもなく  
病気でもありません。人から見捨て  
られ、尊厳を失うことです。

愛の反対は憎しみではありません。  
無関心です。



# 市民生活（民生）は誰が支える？

1. お年寄りや身寄りは身近な存在（家族、隣人、知人）
2. やがて自分の番が来る。
3. その介護は、日本では介護保険任せ、制度任せ。いわば国任せ。
4. 欧米では市民生活は市民が守る。この意識は学校で既に叩き込まれる。高校生は介護実習40時間が義務化されている。勤務者も、ボランティア休暇を有給で取れる。国民の約半数はボランティアに従事している。

# 未曾有の事態

1. 戦前は人生文字通り50歳。
2. 戦後急速に寿命が延び、平均80歳を超える。
3. 介護を必要とする人が急増し、病院が老人で満床になる。そこで介護保健が創設され、特養が発足した（平成12年）。
4. 発足当初は入所者があまりなかった。世間体が悪いので入れると非難された。
5. 数年後からそれが消え、施設は満床になった。
6. そこに25年が近づいた。前代未聞の事態。

# 従来のやり方では対応できない

1. 新しい酒は新しい革袋に（聖書）
2. 人手不足は、外国人の導入やロボット活用では解消できない。
3. 欧米の手法を用いるしかない。
4. パラダイムシフト。従来のやり方、考え方を転換する。  
習慣を変えることは困難だが、時代が変わった、考えも変えよう。

# 市民のためにも必要

1. 年寄りのお世話をしたいという市民は少なくない。施設は従来は家族以外の人を遮断していた。
2. 人のためになる行為はその人に生きがいを与え、人生を充実させる。その機会を遮断してはならない。
3. 元気な人は助け、弱ったら助けて貰う。互助の世界は社会の成熟を促し、その品格を高める。
4. 支え合う日本を作ろう。品格を上げよう。

# 欧米に学ぼう

1. 孤児、障害者、老人などを世話する施設に、当初からボランティアが入り、職員と共に世話をしていた。
2. 今も世間に困った人がいれば市民が助けるといふ文化がある。政府任せにしない、市民の問題は市民で
3. 6年前にアメリカ、今年は9月にカナダを訪問し、実情を調査、研修する。
4. 9月8日出発、9月14日帰国。参加者歓迎。

# 研修旅行の概要

1. 9月8日～14日の行程
2. 成田発トロント経由、ナイアガラ 1泊
3. ナイアガラ観光後、トロント経由でからオタワへ オタワ4泊
4. 3日間、ブリュエール病院で研修と実習。
5. モントレオール経由で成田へ。